

5 教科横断的な実践及び総合的な学習の時間

小学校 第3・4学年	総合的な学習の時間	地域を守る
単元名	みんなでつなぐ「いのちの輪」 ～避難所生活について考えよう～	
本単元で育成する資質・能力	問いを立てる力・論理的に考える力・協働して解決する力	

日時	平成30年9月 第5校時	学年	第3・4学年
研究主題	いのちを守り心を育てる防災教育の推進 ～地域と協働する協調的な学びを通して～		
本時の目標【授業のねらい】			
◎避難所運営のシミュレーションゲームを通して、想定し得るリスクに対処しながら、多くの人が情報共有できるためのシステム作りや、他者に対する思いやりのある優しいルール作りが必要となることを理解する。			
授業の見どころ			
地域の方・保護者の方にも子ども達と共に本活動に参加していただくことで、家庭全体、地域全体で災害に備える意識を高める。子ども達は本学習を通して、保護者や地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、大人の知恵を借りながら自分たちなりの意見を出しあう。そして、思いやりある避難者の配置や生活ルールを考えていく授業である。			

1 カリキュラムマネジメントによる学びのデザイン

	1 学期	2 学期	3 学期
総合的な学習の時間	スマイルサポートプロジェクト(全70時間)		
	学習のスタート 地域に暮らす人々(3)		
	月1訪問「ひまわり交流会」をしよう(21) ・交流会を計画しよう ・ひまわり交流会をしよう ・お年寄りの不自由さを知ろう【高齢者体験】 ・お年寄りの不自由さを知ろう【車いす体験】 ・月1訪問サポートプランを考えよう ・月1訪問をしよう		
	スマイル新聞をつくろう(5) ・体験したことやわかったことを新聞にまとめよう ・新聞コンクールに出品しよう	学習発表会で発表しよう(5) ・体験したことやわかったことを劇にまとめよう	学習のゴール スマイルサポート kids になろう(16) ・お世話になった人に案内状を書こう ・スマイルサポート kids 認証式をしよう ・スマイルサポートカードを作って発信しよう
自分たちにできることを考えよう(20) ～サポートのしかたを学ぼう～ ・福祉の仕事を知ろう ・ハンドケアを学ぼう ・歌ってふれあい「マイソング」 ・シニア運動会 ・みんなでつなぐ「いのちの輪」・地域防災参観日			
関連教科 3年保健「けんこうな生活」 4年保健「大きくなったぼく・わたし」 3年社会「わたしたちのまちのようす」 4年社会「ごみの始末と活用」 「命と暮らしをささえる水」 3年国語「より良い聞き手になろう」 4年国語「よりよい話し合いをしよう」 行事「防災教室」「救急法講習会」	3年社会「店で働く人々」 「工場働く人々」 4年社会「なくそうこわい火事」 「防ごう事故や事件」 「地域のために尽くした人々」 4年国語「手と心で読む」 「リーフレットを作ろう」 4年理科「骨と筋肉の仕組み」 体育「多様な動きをつくる運動」 行事「地域防災参観日」「学習発表会」	3年社会「昔の道具と人々のくらし」 3年国語「モチモチの木」 4年社会「県内の地域の特色」 4年国語「わたしの研究レポート」 道徳「思いやりの形」 「おじいちゃんのごらくごらく」 「神戸の復興はぼくらの手で」	

2 本時の展開・授業デザイン（全5時間 本時1／5）

時間	授業の流れ	留意点・子ども達に考えさせたいこと等
5分	<p>1. 土砂災害の映像や避難所の写真を見て本時の学習意図をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな状況か。 ・どんな人がいるか。 ・地域ではどんな人がいそうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り・子供・赤ちゃん・家族連れ・ペットを連れた人・外国人・障害のある人… </div> <p>2. 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>㊦ みんなが使いやすく、生活しやすい避難所について考えよう。</p> </div> <p>3. 状況設定を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に土砂災害警戒警報が発表されている。 ・天候は大雨。 ・すでに町内で10か所以上、地域でも3か所の土砂崩れが起きている。 ・道路は土砂によってうまってしまい、通れるようになる見込みがない。 ・小学校体育館にも多くの地域の方が避難して来た。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○赤十字防災教育プログラム「まもるいのち・ひろめるぼうさい」から土砂災害の映像を視聴させ、地域でも似たようなことが起こったらというイメージを持たせる。 ○日赤提供の避難所の写真から、混雑した状況、生活しにくい状況であることをつかませる。 ○色んな人がいることを理解させ、みんなが生活するのに困難な状態に気づかせる。 <p>○4つのグループに分かれて行う。</p> <p>○状況設定を丁寧に行うことで、子ども達が自分事として災害状況や避難所の状況をイメージできるようにする。</p> <p>○使えるものと使えないものを確認させる。</p>
10分	<p>4. グループで相談し合い、周囲の状況や学校にある使えるものなどの条件を確認しながらみんなが使いやすく、生活しやすいように避難者カードを配置したり、避難者のニーズに対応したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方や保護者の方にもグループに入ってもらっていただくことで活発な話し合いを促す。 ○読み手に間をとらせず、次々に読み上げさせることで、瞬時の判断が必要になることを実感させる。 ○高齢者が多いという地域実態から、高齢者がどのように避難所を使えばよいかについて考えさせる。 ○話し合い途中に数回イベントを入れ、急な変更や事件にも対応していくようにする。 ○話が進行しにくい場合は指導者が入ってフォローする。
30分	<p>5. 各グループの配置結果を交流する。（1グループ3分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置のルール ・気を配ったこと ・取り組んで困ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○なぜそのような配置にしたのか、どんなことに気を配ったのか、根拠を明確にしながら発表させる。 ○発表を踏まえて気が付いたことを伝え、活動の価値づけを図る。
42分	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んでの感想 	
45分	<p>6. 振り返りカードを書き、全体のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の避難所で起こりうる状態をイメージしておくことで、自分たちの役割について考えられるよう話をする。

【準備物】 パソコン、スクリーン、体育館間取り図、避難者カード、ワークシート（振り返りカード）

【みんなでつなぐ「いのちの輪」～避難所生活について考えよう～の実践事例の関連資料】

避難所HUG（ハグ）

様々な災害発生時における避難所運営を机上で模擬体験するために、静岡県が開発したゲームです。避難所となる学校の体育館や教室に見立てた平面図上に、次々と避難してくる事情の異なる避難者の情報（年齢・性別・家族構成・持病など）が書かれたカードを適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。



「避難所 HUG 一式」

《期待できる効果》

- 1 乳幼児，高齢者，持病のある人，外国人など様々な事情の人が避難してくることを疑似体験できます。
- 2 避難所での生活を具体的にイメージすることができます。
- 3 避難所で何ができるか判断する力を養うことができます。
- 4 一緒にゲームする人と意見を交わしながら，考える力を養うことができます。

《必要物品参考例 1グループ分》

- ・校舎配置図（体育館や教室，グラウンドなど平面図）
- ※ 付属の CD にデータがありますので，印刷して使用できます。
- ・付箋（大）50 枚
- ・A 4 用紙 20 枚
- ・黒・赤マジックペン 2～3 本
- ・セロハンテープ

※詳細については静岡県の HP を御覧ください。

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/hinanjyo-hug/index.html>

1. 目指す単元イメージ

「いつ起こるかわからない自然災害に対して、私たちはどのように備えることが大切か、そして中学生として何ができるのか考え行動していく。」



2. 単元計画（5時間）

(1) 保健 自然災害の危険 大雨や地震の恐ろしさと災害発生後の行動

(2) 道徳 震災の中で ボランティア、社会への奉仕とは何か

(3) 特別活動 共に生きる 学校が避難所になることの課題

(4) 保健 中学生による多様性ある避難所運営 実際の避難所運営



(5) 保健 自然災害による傷害の防止 西日本豪雨での被害の要因

10月 「ハザードマップづくり」
西日本豪雨での被害箇所や土砂災害危険区域

11月 文化祭でのプレゼン発表と掲示物の展示

自然災害の危険 ～大雨や地震の恐ろしさと災害発生後の行動～

◇本時の目標 自然災害の危険は災害発生時だけでなく二次災害によっても生じること、また災害時に必要な行動の在り方について根拠をもって説明することができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
<p>1 地域における西日本豪雨での被害について知る。</p> <p>2 本時の課題を知る。</p>	<p>◇西日本豪雨の影響で地域の河川が増水し、護岸が崩れ、橋が流失したり、断水になるなど大きな被害が出たりしたことを写真や新聞記事で気付かせる。</p>	
<p>自然災害の危険と災害時にどのような行動が必要か考え、根拠をもって説明しよう。</p>		
<p>3 自然災害には、一次災害と二次災害があることを理解する。</p> <p>4 地震によって、身の回りにはどのような危険が迫ってくるかグループで話し合う。</p>	<p>◇一次災害と二次災害の違いを明確にし、火災や津波などの二次災害による被害も大きいことも理解させる。</p> <p>◇グループで思考ツールを活用して多様な考えを引き出させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 液状化。停電や断水。家が倒れる。 土砂崩れ。津波が来るなど。 </div>	<p>・自然災害には一次災害と二次災害があることがわかる。 [知識・理解]（観察）</p>
<p>5 東日本大震災で、岩手県釜石市の多くの児童や生徒が助かった理由を考える。</p>	<p>◇個人思考をさせた後、グループ内で説明させる。</p>	<p>・地震発生後の危険から、どう行動すべきか根拠を示しながら説明している。 [思考力・判断力]</p>
<p>6 津波避難の三原則を知る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 想定にとらわれない。 最善をつくす。 率先避難者たれ。 </div>	<p>（観察、ノート）</p>
<p>7 本時のまとめをワークシートに記入する。</p>	<p>◇日頃からの災害への意識も含めた準備を大切にすることにより、落ち着いた行動ができるようにすることが大切であることを伝え、振り返りをさせる。</p>	

震災の中で 内容項目：D－（5）社会への奉仕，公共の福祉

◇本時の目標 見返りを求めず，相手の立場に立って行動することの尊さや意義を理解し，社会への奉仕を進んで実践しようとする態度を育てる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）
<p>1 阪神大震災について知る。</p> <p>2 「震災の中で」を範読し，初発の感想を交流する。</p> <p>3 ただ見守っているだけの「私」が，なぜボランティアに参加しようと思ったのだろうか。</p> <p>4 もし自分がボランティアに参加して，震災にあった人から文句を言われ続けたら，あなたはやり続けることができるか。</p> <p>5 私やボランティアの人の心の支えになったものは何だろうか。</p> <p>6 ボランティア活動をされている尾畑春夫さんを紹介する。</p> <p>7 授業の振り返りをする。</p>	<p>◇阪神大震災について説明する。（1995年1月17日未明に発生 震度7 死者6000人）震災後，全国から約137万7,300人のボランティアが駆けつけた。</p> <p>◇多様な意見が出やすいように，円形の席にする。</p> <p>◇資料を読んで，率直な感想を聞く。意見が出にくい場合は，ペアトークさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命やっている父の姿に後押しされた。 ●後押しされてできるものですか。 ・誰かの役に立ちたいと思う。 ●ボランティアに参加することが役に立つことですか。 <p>◇心情レーダーに自分のネームカードをはり，自分の理由を発表し合えるようにする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>続ける</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>←————→</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>止める</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・困っている人のためにがんばる。補どうしてそう思えるの。その理由は。</p> <p>・どんなに厳しく言われても，決めたことだから最後までやりぬく。補どうしてそう思えるの。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・一生懸命やっているのに，そこまで言われたらやめる。補震災で心が傷ついている人の方がもっと苦しいのでは。</p> </div> </div> <p>◇「人を救うのは人しかいない」という言葉に着目させたり，ボランティアに参加した時に，心が温くなる経験について考えさせる。</p> <p>◇尾畑さんの言葉から，社会奉仕について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かのために役に立ちたいと思う心は必ず理解し合える。 ・人には強さと弱さがある。だから互いに支え助け合って生きていくことが大切。そのことが社会貢献につながる。

資料 「出典：東京書籍」

中学校 【2年生 特別活動】共に生きる

地域を守る

大地震が起きると、私たちの生活にどのような変化が起きるか考える。

◇本時の目標 大地震が起きると、私たちの生活にどのような変化が起き、今後の生活にどのような課題が出てくるか説明することができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
1 西日本豪雨災害の後の状況について知る。	◇西日本豪雨時、地域では生涯学習センターが避難所になったことや市民が避難したことを知らせる。中学生も避難している。	
2 本時の課題を知る。	「大地震が起きると、私たちの生活にどのような変化が起き、今後の生活にどのような課題が出てくるか説明しよう。」	
3 大地震が起きたら、私たちの生活はその後どんな変化が起こるのか考える。	◇思考ツールを活用し、日常生活との関連で多様な考えを引き出させる。 ・食料や水が不足する。トイレの水が流れない。電気がつかない。お風呂に入れないなど。学校も避難所になる。	・地震発生後の生活の変化や学校が避難所になることの課題について根拠を示しながら説明している。 [知識・理解] (観察、ノート)
4 学校が避難所になると、どんな課題があるか考える。	◇学校で避難所になることで、どのような課題があるか多様な考えを出させる。 生活物資（水や食事衣類）の不足。避難所で活動する人の不足、医療の不足。健康面や精神的な不安など。	
5 避難所に入った生徒の話を聞く。	家族同士の仕切りはなく、近所の人といっしょだった。1人1畳程度のスペースがあった。ご飯は非常食のお米と乾パンだった。毛布が配られた。受付をせずに入ったので、どこに行けばいいか分からなかった。	
6 大災害にあうと、人々の心にどのような変化が起きるだろうか。	◇災害が起きると、人々は心にも大きな傷をもたらす。PTSD（心的外傷後ストレス障害）を引き起こすこともあることにふれる。	
7 本時のまとめをワークシートに記入する。	◇防災は支援だけでなく、地域の絆を高めることが大切であり、自分たちで何が大切か考えて行動していくことが大切であること。	

多様性ある避難所運営 (演習)

◇本時の目標 災害時に学校が避難所になった時、その運営に携わる場合に必要な視点を見付け、まとめたことを互いに発表することができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準
1 今日の課題を確認する。		
<p>「災害時に学校が避難所になった時、その運営に携わる場合に必要な視点を見付け、まとめたことをお互いに発表しよう。」</p>		
<p>2 HUG (避難所運営ゲーム) について理解する。</p> <p>3 HUGを行う。</p>  <p>4 各グループで気付いたことを発表する。</p>  <p>5 本時のまとめをワークシートに記入する。</p>	<p>・外部講師の活用</p> <p>◇HUGとは、避難者を体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームであることを理解させる。</p> <p>◇広島市を震源地とする大地震が発生し、学校が避難所になったという想定で行う。</p> <p>様々な情報を伝える人 → 情報を聞いて、瞬時に判断しどこに避難してもらうか考えて配置する。</p> <p>◇HUGを行ってどのようなことを感じたか各グループで意見交流させ、その後、全体でも意見交流をさせる。</p> <p>◇災害の予報・予知について空振りには許されるが、見逃しは死につながる行動です。常に最悪の事態を想定して行動することの大切さを理解させる。</p>	<p>・課題の解決に向けて、話し合い等の学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>[関心・意欲・態度] (観察)</p> <p>・避難所運営に携わる場合に必要な視点を見付け、まとめたことを発表している。</p> <p>[思考力・判断力] (観察, ワークシート)</p>

自然災害による傷害の防止 ～命を守るために大切なことは何か～

◇本時の目標 西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因について、新聞記事から考え、命を守るために大切なことは何かまとめたことを発表できる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
1 学習課題を知る。	◇今回の西日本豪雨災害の被害状況も知らせ、その大きさを理解させる。	
<p>「西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因について、新聞記事から考え、命を守るために大切なことは何か説明できる。」</p>		
2 西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因が何か考える。	<p>◇各グループで、新聞記事を元に被害が大きくなった要因として考えられることについてマークをつけさせる。</p> <p>【記事から予想される要因】</p> <p>①当日の気象状況 ②正常性バイアス ③大雨の情報に対する正しい理解</p>	
3 西日本豪雨災害からの教訓から、命を守るために大切なことは何かまとめる。	◇新聞記事にマークした箇所を通して、命を守るために必要な行動や意識について自分の考えで説明させる。	
4 各グループで出た意見をまとめて発表する。	◇被害が大きくなった要因から、命を守るために大切なことをつなげて発表させる。	<p>・被害が大きくなった要因から、命を守るために大切なことをつなげて説明できる。</p>
5 本時のまとめをワークシートに記入する。	◇災害から命を守るために、自分で考え、自分で判断し、自分で行動できること。日ごろから地域の人とコミュニケーションを図り、絆を深めておくことが大切であることを押さえさせる。	<p>[知識・理解] (観察、ワークシート)</p>

町内の被害を伝える新聞記事（中国新聞）

三篠川 4橋壊れる

堤防崩落急ブレーキ

向原住民「日常の道怖い」



三篠川の増水で、決壊した実業橋（奥）へ続く堤防が崩れ、向原町（8日午前9時10分、安芸高田市向原町坂）の被害が拡大した。堤防の崩壊は、向原町（8日午前9時10分、安芸高田市向原町坂）の被害が拡大した。堤防の崩壊は、向原町（8日午前9時10分、安芸高田市向原町坂）の被害が拡大した。

三篠川の増水で、決壊した実業橋（奥）へ続く堤防が崩れ、向原町（8日午前9時10分、安芸高田市向原町坂）の被害が拡大した。堤防の崩壊は、向原町（8日午前9時10分、安芸高田市向原町坂）の被害が拡大した。

向原9カ所で橋流失・損壊

安芸高田市向原町で、町内を流れる川の増水や流木の影響で、市道や農道に架かる計9カ所の橋が流失や損壊した。三篠川に架かる高大地橋は橋桁が跡形もなく流され、寺山橋は流木が引っかかるとして亀裂が入るなどとして亀裂が入るなどとしていた。



安芸高田市向原町で、町内を流れる川の増水や流木の影響で、市道や農道に架かる計9カ所の橋が流失や損壊した。三篠川に架かる高大地橋は橋桁が跡形もなく流され、寺山橋は流木が引っかかるとして亀裂が入るなどとしていた。

寺山橋を通常で利用する向原中1年生極紗和さん(12)は「回り道はあるものの、通学距離も遠くなり不便。まさか壊れるとは思っていませんでした」とぼう

増水や流木で損壊した寺山橋（7日午前7時15分、安芸高田市向原町坂）

断水・停電相次ぐ

県北3市

断水や停電も相次いで、安芸高田市向原町では、同町を流れる三篠川が増水して水道管を取り付けた橋が壊れて流れ出し、水道管がちぎれるなどして、977世帯に水を供給できなくなりました。

市は同町の向原生涯学習センターみらいなど計5カ所に緊急の給水所を設けて対応。同町坂の主婦内藤真知子さん(79)は「高齢者が多い地域なので、水が出ないと生活に困る。早く復旧してもらいたい」と話す。

三次市内でも土砂崩れのため水道管が破損し、和知町、大田幸町、西酒屋町で計527世帯が断水。両市とも復旧のめどは立っていないという。

中国電力によると、7日午後3時現在、庄原市で148世帯、三次市で12世帯が停電しているという。



増水や流木で流れ出した、水道管を取り付けていた橋。左奥には断ち切られた水道管が垂れ下がる（7日午後0時10分、安芸高田市向原町長田）

生徒が撮影した町内の被害状況の写真



生涯学習センターに生徒が避難した時の様子

西日本豪雨によるみらいでの避難の様子

- 家族同士の仕切りはなく、近所の人と
いっしょだった。
- 1人1畳程度のスペースがあった。
- ご飯は非常食のお米と乾パン。
- 毛布が配られた。
- 受付をせずに入ったので、どこに行けば
いいかわからなかった。

HUG（避難所運営ゲーム）の様子



HUGを終えての感想

- 休む暇もなく、旅行者や家族つれなどの避難者の方がやってくるので大変だった。
- 普段から素早い対応をすることが大切だと分かった。
- これからに生かして**周りの人を助けたい。**

新聞記事を元に、西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因を考える



ハザードマップづくり

西日本豪雨で橋が壊れたり、土砂崩れがあったり箇所や町内の土砂災害危険地域を記載

